

かわさき区の宝物シート

宝物No.
19-3

かわさきののりづくりしりょうしつ 川崎の海苔づくり資料室

エリア	大師地区	シーズン	通年
	東扇島	日時	

目的	<input type="checkbox"/> 観る	<input checked="" type="checkbox"/> 遊ぶ・体験する
	<input type="checkbox"/> 食べる	<input type="checkbox"/> その他

宝物定義	<input type="checkbox"/> ものづくり	<input type="checkbox"/> イベント・祭り
	<input checked="" type="checkbox"/> 味づくり	<input type="checkbox"/> にぎわい
	<input type="checkbox"/> 現代の文化的なもの	<input checked="" type="checkbox"/> 港めぐり
	<input checked="" type="checkbox"/> 歴史的なもの	<input type="checkbox"/> 人物



写真提供：(公社)川崎港振興協会

所在地	川崎区東扇島38-1 (川崎マリエン2F)
問い合わせ	(公社)川崎港振興協会
TEL	044-287-6000
FAX	044-287-7922
E-mail	
URL	
交通	JR川崎駅より川05系統バス「東扇島循環」で「川崎マリエン前」下車



基礎情報

■平成23年(2011)2月から「川崎の海歴史保存会」より寄贈された海苔づくりの道具等を展示している。

由来・エピソード

■多摩川河口から鶴見川河口にいたる遠浅の海は「大師の海」と呼ばれ、魚貝類が豊富に採れる漁場として発展してきた。のり養殖は、明治4年(1871)大師河原地区の漁師が国から海面使用权を得て開始された。「のり」は水温の低い冬季に成育し、採取することから、初期は農閑期の副業として始められたが、次第に本業へと転換し、昭和9年(1934)頃には、400世帯の漁師と地方からの出稼ぎの人も手伝いに来ていた。

■やがて川崎が工業都市化していくなかで、埋立地の増加、水質の悪化から次第に漁業は衰退へと向かい、昭和47年(1972)には漁業権は放棄され、川崎の漁業は終焉を迎えることとなった。

かつての地場産業を残そうと、「川崎の海の歴史保存会」が保存展示していたのり養殖に関する伝統道具を川崎港振興協会が寄贈を受け、平成23年(2011)2月1日に「川崎の海苔づくり資料室」としてリニューアルオープンした。

■展示内容

川崎の漁業の歴史を説明するパネルや、べか舟、網ひび・竹ひび(模型)、のり下駄、振り棒、棒抜きがま、せい(藤壺落とし)、摘採機、まるざる、洗いざる、のり簀(す)、のり付け台(のり樽)、のり乾かし枠、のり切り機などを展示している。

補足・その他

--

関連シート

- (10-3)若宮八幡宮・若宮郷土資料室
- (14-5)市立殿町小学校海苔・郷土資料室
- (16-3)屋形船
- (19-1)「川崎漁業ゆかりの地」碑
- (19-2)川崎マリエン
- (28-1)港湾施設(埋立地)
- (28-2)川崎港・運河